

3. 結果および考察

調査結果は表一のとおりである。

1) 枯損木は8月上旬に認められ、9月調査では予防薬剤散布区と無処理区の枯損率の差が認められ、11月調査では KKK—110, 200倍区 5%, MEP400倍区 5%, パインテックス400倍区 14%, MEP—MEB, 80倍区 1%, 無処理区26%の枯損率であった。

2) EDP—EDB 80倍区, KKK—110, 200倍区,

MEP 400倍区は顕著な効果が認められた。パインテックス 400倍区は 14%の枯損率で、他の薬剤に比較して効果はうすかった。

3) 枯損木の大きさは、全区とも変わりはなかったが、比較的大きい樹木が枯損する傾向がみられた。ことにパインテックス400倍区はその量も多かった。

4) パインテックス 400 倍区については薬剤濃度によるものか高樹高により散布むらによるものか、その他諸種の因子によるものか更に検討の必要がある。

表一 予 防 散 布 調 査 表

試 験 区	樹 高 <i>m</i>	胸高直径 <i>cm</i>	予 防 剤	濃 度 倍	昨年の 枯損率	枯 損 率	
						9 月	11 月
No. 1	8—12	8—20	KKK—110 乳剤 25%	200	10—14	3%	5%
No. 2	"	"	MEP 乳剤 50%	400	"	3	5
No. 3	10—12	"	パインテックス乳剤 MEP 40% EDB 20%	400	"	9	14
No. 4	6—10	"	MEP 40 EDB 20 乳剤	80	14	0	1
No. 5	8—12	"	無 処 理		10—14	19	26

注) 散布量 1 木当り 3*l*, 5月27日に全樹処理した